

「2050年をリードするパッシブ環境技術と再生可能エネルギー」

講師:株式会社中村勉総合計画事務所 代表取締役 中村 勉 氏

日時:令和3年10月19日(火)13:30開会(講演13:40~14:50)

会場:ちより街テラス ちよテラホール

〒781-0806 高知市知寄町2丁目1番37号

地球温暖化防止を目的としたパリ協定が発行し、地球規模で本格的に「脱炭素社会」に向けた動きが加速化しています。中でもバイオマスエネルギーは、電気以外にも熱や燃料も生産できることから、今後も独自の役割を果たすことが期待されています。

我が国は昨年10月に、2050年までにカーボンニュートラル、脱炭素社会の実現を目指すことを宣言し、本年4月には、2030年度に温室効果ガスを2013年度から46%削減し、さらに、50%の高みに向け挑戦を続けることを表明しました。

特に、森林率84%を誇る日本一の森林県である高知県については、その豊富な資源を活かし、中山間地域の活性化に繋げていくための戦略が必要です。平成24年7月に再生可能エネルギーの固定価格買取制度が開始し、大型のバイオマス発電施設が稼働を始めていますが、バイオマスの熱利用は、思うように進んでいない状況です。そこで、バイオマスを取りまく環境の将来を見据えて、建築家の視点から再生可能エネルギーの在り方、バイオマスエネルギーの活用方法についてご講演いただきます。



講演内容

- ・低炭素社会に向けて何が必要か
- ・バイオマスエネルギーが今後果たす役割とは

肩書:

ものづくり大学名誉教授

BNA中村勉総合計画事務所代表取締役

脱炭素社会推進会議(22団体)代表議長

元東京建築士会会長 日本建築士会連合会環境部会長

日本建築家協会 UIA ARES WPメンバー

日本建築学会 地球環境委員会建築WG主査

アジア開発銀行登録環境建築コンサルタント

(講師略歴)

- ・1969年東京大学卒業、楨総合計画事務所所員、AUR建築・都市・研究コンサルタント取締役副所長を経て1988年より中村勉総合計画事務所主宰。
- ・環境省21世紀環境立国戦略部会、中長期ロードマップ委員会、国交省・経産省・環境省住まいと住まい方推進会議、林野庁・国交省木のまち木のいえ幹事、経産省NEDO審査委員などを歴任し、環境建築の研究と低炭素社会政策提言を行う。
- ・作品として、浪合フォーラム、豊田市立旭中学校、菟田野小学校、和光小学校、宇陀市上笠神住宅、大東文化大学、みなと保健所、七沢希望の丘初等学校、森山保健センター、東松山化石体験館、堯舜インタナショナルスクール、ゆずり葉の森、木創研ZEH、AtomsWorld OFF-GRIDオフィスなど
- ・受賞として建築学会作品選奨、欧州先進建築家リーフ賞、アルカシア建築賞、BCS賞、グッドデザイン賞、公共建築賞、日本建築士会連合会賞、JIA環境建築賞、サステイナブルデザイン賞など受賞多数
- ・主な著書として「環境デザインの授業」「3・11後の建築・まち-われわれは明日どこに住むか」「木の魅力を拡げる」「低炭素社会へ向けた13のガイドライン」「早わかり木の学校」「2050年から環境をデザインする」「環境建築読本」等がある。